

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100193		
法人名	株式会社 松鶴		
事業所名(ユニット名)	松鶴松江壱番館(グループホーム)		
所在地	和歌山市松江東二丁目4-32		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100193&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

部屋や館内に居るばかりではなく、自由に外に出れるように日中は、施設せず、もし、外に出るようなことがあれば、職員と一緒に外出するなど、できる限り、楽しく、気持ちよく過ごせてもらえるように支援しています。

また、本人のできることは何か見極め、役割を持つ事により、張り合いのある生活が送れるように日々利用者の方と一緒に過ごしています。

あと、職員のスキルアップを積極的に行い、元気で明るく、福祉に熱い職員が多いのも、松鶴松江壱番館の特徴でもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海を控えた静かな場所にあり、周辺には畑が広がっている。まさに日向ぼっこがぴったりの環境である。ホームの玄関は利用者はもとより家族や地域の人々の出入りが自由であり抑圧感のない自由な暮らしを支援している。又小規模多機能事業所が併設されており、両事業所の職員が協力してケアにあたる事ができる点が強みとなっている。全ての職員は熱い思いを胸に秘めて、利用者本人の視点に立った介護を心掛け、明るく・楽しく・元気に・家族のように接しますとの理念の実現を目指し日々のケアサービスに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かい日には、日向ぼっこや買い物など、館内から出て、地域の方とふれあい、楽しくすごせられるように努めている。 また、歌が好きな人ならば、一緒に歌を歌うなど、心のこもった介護を行うように努めている。	玄関及びスタッフルームには事業所理念を掲げている。特に申し送り時や会議の際に唱和等は行っていないが、理念は管理者と職員に十分に浸透し共有されており、日々のケアサービスは事業所理念に沿って実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や日向ぼっこ、買い物などを行い、そういう活動の中で、地域の方や他の利用者の方も交え、会話や挨拶などを大切にしている。	以前は看板の設置はなかったが、玄関横に事業所の名称を掲げる事により地域の方々の認知度が高まった。地域の幼稚園児の訪問、神社の祭りへの参加、ホームでの花火交流会の開催等を通して地域の方々との交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	窓、ドアの開放や日向ぼっこを行い、挨拶を交わすことや地域行事への参加や企画を行い地域の方と交わることにより、認知症の理解を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議前に、全館内を見て頂き、利用者の方の状況や設備、行事などの地域から見た意見を頂き(事業者の看板の設置や地域祭りの準備)など、改善を行った。	2ヶ月に1回運営推進会議が開かれており、地区社協の会長、包括センター職員、家族等の参加を得ている。会議では事業所の現況やサービスへの取り組み等を報告し、話し合いを通して出された意見を改善に繋げる等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区社協の会長に助言を頂きながら協力関係作りを行っている。より一層、地域密着に努めて行きたい。	地区社協の会長及び包括センター職員との連携を密にし、事業所の実情や取り組みを伝えと共に、地域の介護を含むくらしの情報を得ている。協力関係を更に深め、事業所の理念に掲げている地域密着を着実に推し進める取り組みがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関を施錠しないようにし、暖かい日には、玄関を開放し、外へ出入りを行い得るようにしている。	身体拘束となる具体的な行為の正しい理解に向け事業所内勉強会を開くと共に、外部研修に参加した場合は伝達研修により、代表者及び全職員への周知を図っている。施錠についても日中は出入り自由であり出ようとする利用者については制止はせず職員同伴での散歩に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加させ、施設内勉強会を行い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の中に勉強会を行い、必要な方が居れば、支援していきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方にわかりやすいように気をつけながら、説明するように心がけている。また、説明の間に確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来館時や運営推進会議時など、意見を頂き、改善したことを報告するようにしている。	月毎の支払いの為の来訪時及び運営推進会議の場が、利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者に表せる機会となっている。家族等の提案を受け改善した例も多くあり、得られた意見、要望を運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で、常に意見の言える雰囲気作りに努めている。できる限り、職員の意見を反映するようにしている。	ケア会議の際や申し送り時以外にも気づきがあった時点で、随時職員は管理者に意見や提案を出している。出された意見や提案は全職員での話し合いを通して具体化し、管理者が代表者に具申する事により運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護や行事などの相談ができる雰囲気作りに努め、職員がバウンアウトしないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常にスキルアップするように声かけを行い、社内外の研修に積極的に参加するように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の研修会や行事では、他の事業所の方との交流を持てる機会作りとネットワークの大切さを伝えている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話をする時間作りを行い、また、外出など対応可能なときは、本人の安心感を持てるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、家族の方の話を傾聴し、安心して話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療の連携がいるような利用者の方が居れば、訪問看護と連携しながら対応に努めている。 アセスメントを行うことにより、必要としている支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見つけ出し、日常生活の中で自然と行えるように声掛けや必要物品の準備など行いながら協力しあいながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来館されたときには、日頃の様子や変わったことなど、本人と交えて話をすることもあり、家族の絆を大切にする支援に心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への帰省や近隣の方への挨拶など慣れ親しんだ所を大切にしていけるよう努めています。	本人や家族からこれまでの馴染みの人や場所の聞き取りを行い、今後も関係が継続するよう家族の協力を得て支援している。自宅に帰った際に近所の方々と交流を持つ事や墓参り等が実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限り、日中は、ホールで過ごせるように、音楽を流したり、また、日向ぼっこや外出、洗濯物タタミ、食事作りなどの他の利用者の方との交流できる場作りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談にきたときには対応している。また、お会いしたときには、挨拶を行うなど、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方や家族の方と日頃から話を行うことにより、例えば、外出や食事メニューなど対応できるように努めている。また、困難な状態であっても、できる限り対応できるような支援に努めている。	利用者の日頃の言動から得られた情報を職員間で共有しながら、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用に至るまでの状況を家族等から聞き取り、本人本位に検討しながら利用者の望む生活の実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話を通して、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や職員間の会話により、把握するように努め、また、利用者の方にも何をしたいかなど確認しながら、援助するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から希望を聞くなどを行い、また、職員間との話し合いの中で、援助の見直しや今、必要な物は何かなど出し合い、介護計画に沿うように努めている。	家族のホームへの訪問に合わせて本人、家族の意見や要望を確認すると共に、職員及び主治医等の関係者間での話し合いを経て、本人のできる事に力点を置いた介護計画を作成している。3ヶ月毎の更新を基本としているが、状況の変化やモニタリングを通しての気づきに応じて随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ライフサポートプランを活用し、介護現場に計画書ファイルと見える場所に置き、援助するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動や他の介護サービス事業所との情報交換などを行い、対応できるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の幼稚園児との交流や地域祭りへの参加など行ない楽しんでいる。今後、利用者の方も、準備段階から参加できるように取り組んでいきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回の往診がある。また、今まで受診していた医療機関もあり、継続し、安心して生活が送れるように支援している。	ホーム入居後も特定の診療科目については、かかりつけ医の変更をせず今まで通り受診している利用者もあり、本人及び家族等の希望を優先している。内科については協力医療機関からの往診を全ての利用者が受けており、情報の共有等緊密な連携がとられている。又急変時にはホームで対応し家族等への連絡を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護ステーションが来館し、バイタルチェックや相談など行っている。また、急変時にも、相談し、指示を仰ぐなど対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、相談や入居状況など情報交換を行い、関係作りに努めている。 また、入院時には、病状や退院後の援助の確認など医療面からも情報をもらい支援につなげるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り、本人、家族が望む支援ができるように努めている。終末期ケアも行い、その人らしく過ごしてもらえるよう職員間とも話し合いながら支援できるように努めている。	入居契約時に重度化や終末期への事業所の取り組みを説明し、本人、家族等の意向を確認している。ホームで看取った事例があり、家族、職員、医療関係者と状況の変化に応じて話し合いながら方針を共有し、チームで支援する事ができた。今後も事業所の力量や体制を強化して取り組みたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時への対応マニュアルを作っている。 また、緊急連絡網を作成し、必要に応じ、早期に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火訓練を行い、職員に身につけるように努めている。 地域との協力体制には、今後、運営推進会議を通して、検討していきたいと思う。	年2回の定期的防火訓練時には消防署員の立会いによる指導を受けている。隣接する老人保健施設と話し合いを行い、避難場所の提供や職員の協力が得られる体制となっている。又災害時の地域の人々への支援として、場所や物品の提供等を行う事により双方の協力体制を築く事を目指している。	現在は訓練時の利用者の参加はないが、災害はいつ起きるかわからないことから、災害の具体的な想定をし、確実な避難誘導ができるように職員と利用者が一緒に訓練する事を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、言葉掛けに気をつけるように心がけ援助するように努めている。 相談事や悩み事については、自室や他者が居ない所などの配慮を行いながら支援するように努めている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けているが、ケア実践のなかで守り通す事は難しいと職員は実感している。利用者の個人情報の取扱いについては、その個別性や守秘義務について十分に理解し、施錠できる場所への保管等を徹底している。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの確保について、全ての職員が自問すると共に、日常的かつ具体的に確認し合う事を、改善に向けた事業所全体での取り組みとされるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方からの訴えがあった際には、どうしてももらいたいのかの確認をし、利用者の方が、納得して話しやすいように心がけている。 対応できる内容については、対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の利用者の方の希望やペースに添うように努力はしている。 完全とは云えない状態のため、今後も、努力していきたいと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく身だしなみをしてあげたいという気持ちがあるが、全利用者の方になかなかできていない状態である。 誕生日会やひな祭りなど、行事の時には、おしゃれをするように努めているが、普段の生活の中でも、取り組めたらと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に数回食事作りを行っている。それぞれ、できるところを見つけ出し、他の利用者の方と楽しみながら支援できるように努めている。 また、食器の片付けなど、役割を持った利用者の方もおられ、生き甲斐につながっているようである。	利用者の手による週毎の食事やおやつ作りを実施しており、準備の為に買い物にも利用者と共に出掛けている。調理や盛り付け等、それぞれの利用者が役割を担い楽しく参加しており好評である。日々のメニューについても利用者との会話の中から好みを聞き取り、工夫するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給のチェック表を作成し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行うように日課し、清潔保持が困難な利用者の方には、職員が介助を行ったり、週に1回、歯科衛生士の往診があり、必要な方には、処置してもらえるように行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、管理を行っている。 リハビリパンツを履いていた方が、普通のパンツと尿取りパットのみで対応できている方も居る。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を作成しトイレへの誘導時間の資料としているが、チェック表のみに頼らず一人ひとりのサインを全職員が把握し、さりげなく誘導する事を心掛けている。おむつ外しの成功事例があり、本人にとっての意欲の向上や自信の回復に繋がると共に職員の士気も大いに高まっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間の情報交換やスキルアップ研修で学習してきたことを勉強会などで分かち合い、健康管理に気をつけるように努めている。また、水分補給やヨーグルトの摂取などの取り組みも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り、今日は、入浴したいとの訴えがあった際には、対応するようにしている。 しかし、現在は、それぞれ職員が決めた日を設定し援助している状態である。	利用者一人ひとりの生活習慣や希望を考慮した上で曜日や時間帯を決めているが、理容のための外出等の場合は随時対応している。入浴時の不安や羞恥心、負担感等を職員は理解し、無理強いを避け、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の声かけを行い、対応するようにしている。 できる限り、眠前薬を服用せず、自然に睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どういう薬を服用し、気を付けなければならないか分かるように、処方された処方箋を管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてきたことや今できることを声掛けや一部援助を行っている。日常生活での役割(ゴミ集めや食事の準備・片付け、洗濯物干し・畳みなど)を援助を行ったり、他の利用者の方と交流が持てる環境作りに支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がよいときには、玄関前で日向ぼっこを行ったり、暖かくなってくるとドライブやおやつ外出などを行っている。 今後は、家族の方も一緒に外出できる計画も行っていきたいと思う。	全ての職員は、利用者が外に出掛ける事をあたり前の事と考えて支援している。近所の喫茶店へは利用者全員で出掛けている。食材の買い出しやドライブ、年間行事としては観劇や花見等を実施しており家族等の参加も徐々に増えている。そのため、家族等の参加を前提とした行事計画の立案も検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金については、家族の方の希望もあり、預かり金という形で、小遣い帳を付け、事務所にて管理している。買い物・外食や本人の必要な物品の購入時に、できる限り、本人が支払ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けたいとの訴えがあった際には、対応するようにしている。 認知症の状態もあり、手紙のやり取りは、ほとんどできていない状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、玄関は開放するようにしている。 建物の構造により、密閉感があるが、机の配置や装飾により、居心地がよい環境作りに努めている。	共有のフロアにはさりげなく飾りつけをし、椅子も適宜配置されて居心地の良い空間となっている。ホールには畳の部分も設け、利用者は談笑しながら洗濯物たたみ等に精を出している。五感刺激についても職員が日常的に注意を払い快適な環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本は、席は自由にしているが、利用者間で、決められた場所があるようである。 一人で居たいときには、自室にて過ごす方もおられる。 共有スペースの中で、思い思いに過ごせるような居場所は、建物の構造上で難しいところもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、今まで使用していた物や思い出の物を持って来てもらうように説明している。 （防火的なこともあり）火の出る物以外なら、部屋に入るスペースの物は何でも持参してもよいこととなっている。	本人や家族の意向を確認しながら、利用者が安らぎを得るような馴染みの物や、思い出の品々の持ち込みを依頼している。利用者はそれぞれの思いで配置を工夫し、居心地の良さを演出している。又職員は、プライバシーの保護を常に念頭に置きながら居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の掲示や居室名札を付けたりしている。目印になる物を付けることにより、そこに何があるのか声を出して、訴えられる方もある。		